

地域の資源を活かし、育み、「水」「土」「里」の未来を拓く

# 秋田の山

あきたのとちかいりょう

# 土地改良



VOL. 538  
2026.1

イメージキャラクター  
みどりちゃん



謹賀新年

撮影場所：大森山動物園（秋田市） 撮影：水土里ネット秋田 政策・広報班

## 目次

### CONTENTS

新年挨拶		小水力発電所が完成！（上中水水力発電所）	11
・本会会長【松田知己】	2	北秋田市土地改良区合併10周年 記念式典・祝賀会を開催	11
・秋田県知事【鈴木健太】	2	令和7年度土地改良関係団体役員講習会を開催	12
・全国土地改良事業団体連合会会長【二階俊博】	3	「未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展2025」審査結果	13
・全国水土里ネット会長会議顧問、参議員議員【進藤金日子】	3	永年勤続30年表彰	13
新春対談「明日の農業と土地改良」	4	連合会日誌	13
令和8年度農業農村整備事業関係予算	8	謹賀新年（新年挨拶）	14
農業農村整備の集い～農を守り、地方を創る予算の確保に向けて～	10	第68回通常総会開催予定	14
水土里ネット秋田の要請活動（関係省庁など）	10	編集後記	14

# 新年のごあいさつ



秋田県土地改良事業団体連合会  
(水土里ネット秋田)

会長 松田 知己

初春を迎え、皆様に謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

皆様には平素より農業農村整備事業の推進に多大なる御尽力をいただくとともに、本会の運営に特段の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、本県では4年連続で大規模な豪雨災害に見舞われ、農地・農業用施設にも甚大な被害が発生しました。

被災された皆様に改めて心よりお見舞い申し上げます。

本会では、今春の営農に支障が来さないように、早期の復旧・復興に向けて、関係機関と連携しながら全力で支援してまいります。

農業農村の情勢は、大規模自然災害の頻発化、生産資材等の高騰化などに加え、基幹的農業従事者の激減など、厳しい状況にあります。

こうしたなか、本県が食料供給基地としての役割を担い、国民に安定的に食料を供給していくためには、農業生産基盤を整備し、効率的で適切な農業生産活動を実現することが重要です。

そのため水土里ネットは、新たな「土地改良長期計画」を基に、地域の実情や要望等に的確に対応しながら、積極的に農業農村整備事業を実施していく必要があります。

本会においても、それぞれの地域特性に配慮した総合的な支援をするとともに、事業を計画的かつ安定的に実施できる予算の確保に向けて要請活動を実施してまいります。

「農業は国の基」です。

農業は、人間が生きていく上で必要不可欠な食料を生産し、国民の生活を支えています。食料供給が不安定化しているなか、今一度、農業の重要性を再認識し、農業農村の持続的発展を図る必要があります。

本会は、会員及び関係機関の皆様と力を合わせ、本県の農業農村の発展に向けて役職員一丸となって業務に取り組んでまいりますので、本年も変わらぬ御支援と御愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この一年が皆様にとりまして、希望に満ち、幸多き一年となりますように、心から御祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

# 年頭のごあいさつ



秋田県知事

鈴木 健太

明けましておめでとうございます。

水土里ネット秋田の会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

秋田県知事として初めての新年を迎え、県民の皆様から多くの負託をいただいた責任の重さに、改めて身の引き締まる思いです。

昨年は、6月から7月にかけての渇水や、4年連続となる記録的な大雨など、農作物にとって非常に厳しい生産条件になったほか、農地・農業用施設も県内各地で大きな被害に見舞われました。県としましては、生産者の皆様が早期に営農を再開できるよう、関係機関と連携しながら、復旧に向けて全力でサポートしてまいります。

さて、現在県では、新たな県政運営の指針となる総合計画の策定作業を進めており、計画においては、人口の社会減少数をはじめとする各種の指標において野心的かつ実現可能な数値目標を掲げることとしています。その達成に向け、「マーケティング手法」を導入して施策の解像度と精度を高めていくとともに、本県が有する地域資源のポテンシャルを最大限に生かした戦略的な施策を展開してまいります。

とりわけ、農業については、食料供給基地としての役割をしっかりと果たすため、多様な担い手の育成はもとより、「あきた型ほ場整備」の着実な推進のほか、スマート技術の実装や乾田直播などの技術革新による低コスト・省力化の促進などにより、生産基盤の強化と生産性の向上を図るとともに、輸出の拡大にも取り組んでいく方針です。

また、活力あふれる明るい農山村地域の実現を目指し、地域を支える人材・組織の育成や関係人口の拡大を推進するとともに、地域資源を活用した新たなビジネスの創出や多面的機能の維持・発揮を支援してまいります。

水土里ネット秋田の会員の皆様におかれましては、こうした取組が円滑に進むよう、一層のご支援・ご尽力をお願いいたします。

結びに、本年の干支となる「丙午」は、力強い活力と勢いを意味すると言われていています。この年にふさわしく、新しい年が皆様にとりまして希望に満ちた飛躍の年となることを祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

# 年頭あいさつ



全国土地改良事業団体連合会  
(水土里ネット秋田)

会長 二階 俊博

令和8年の年頭に当たり、全国の土地改良事業に携わっておられる皆様に謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

平素より、農業農村整備事業の推進に対し、関係各位の格別の御理解と御支援を賜っておりますことに、心より厚く御礼申し上げます。

昨年は、全国各地で記録的な猛暑や集中豪雨など、気候変動の影響が一段と顕著となり、皆様の地域にも大きな影響を及ぼしたのではないかと存じます。

豪雨等により被害を受けられた地域の皆様に対しまして、心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を祈念いたします。

いま、国際社会は、地球規模で頻発する異常気象や世界的な物価高騰などの諸問題に直面しています。一方、我が国の農業・農村は、農業者の高齢化や減少により、農業の継続やそれを支える農地や農業用水の保全管理が困難になるなどの課題を抱えるなど、農業・農村を取り巻く環境は大きく変化しています。

これらの様々な問題の解決のために、食料・農業・農村基本法や土地改良法の改正が行われ、そして、新たに策定された土地改良長期計画に基づき、

令和7年度から11年度までの5年間で農業の構造転換を集中的に進めることとなりました。

競争力のある農業を支える「大区画ほ場整備」や「スマート農業に対応した基盤整備」、また、「中山間地域におけるきめ細かな整備」をスピード感を持って進めていかなければなりません。

本年の干支は「午」であります。前年“前進”“飛躍”の年とされています。まさに地域農業が新たな局面へ踏み出す一年となりますことを願うところであります。

令和8年度農業農村整備事業関係予算 政府原案においては、農業構造改革を集中的に進めるため、4,504億円が計上され、令和7年度補正予算を加えると6,942億円となります。

皆様の熱意ある要請活動と農林水産省をはじめとする関係各位の御尽力に厚く御礼を申し上げます。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様の地域の農業・農村が活力を得て、一層発展するよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかに過ごしていただけますよう御祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。

# 新年にあたって



参議院議員

進藤 金子

あけましておめでとうございます。秋田県土地改良事業団体連合会の会員並びに関係の皆様には、私の政治活動にご理解とご支援を頂戴し、厚く感謝申し上げます。本年も現場主義に徹し、国家の発展と農業農村の振興に努めてまいりますので、よろしくご指導をお願い致します。

さて、昨年は、3月の土地改良法改正、4月の食料・農業・農村基本計画の策定と農業構造転換集中対策の開始、6月の第一次国土強靱化実施中期計画の策定、9月の新たな土地改良長期計画の策定、10月の高市内閣発足による日本経済強靱化計画（通称サナエノミクス）の提唱など、農政、国土強靱化、我が国経済にとって節目の年であったと考えています。

特に4月に食料・農業・農村基本計画が策定され、令和7年度からの5年間で農業の構造転換を集中的に進めることとし、「農地・水の確保」、「地域計画に基づく担い手への農地集積・集約化」、「農地の大区画化」等に関し具

体策を位置付け、また、「食料システム全体で合理的な費用を考慮した価格形成を推進」することも位置付けました。自民党は、基本計画の実施に関して別枠予算の確保を求め、私は実務的に2.5兆円の積み上げを行いました。

基本計画と連動して、9月には新たな土地改良長期計画が策定され、「農業水利施設の戦略的な保全管理による持続的な機能確保」、「激甚化・頻発化する災害に対応した防災・減災対策」等の5つの目標が設定されました。

国土強靱化も含め、これらの政策を進めるためには土地改良の推進が重要であり、農業構造転換集中対策期間のこの5年間では別枠予算も確保して強力に進めていく必要があります。令和8年度に執行可能な予算は令和7年度補正2,439億円、令和8年度概算決定4,504億円の合計6,942億円となっています。予算のスムーズな執行のため、貴連合会による技術支援とご協力をお願い致します。私は本年も土地改良の推進のため、努力してまいりますので、皆様方からの益々のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

## 「明日の農業と土地改良」



J A 秋田中央会長

小松 忠彦 氏

全国水土里ネット会長会議顧問  
参議院議員

進藤 金日子 氏

秋田県土地改良事業団体連合会長

松田 知己 氏

近年、気候変動や世界的な情勢の変化、資材高騰などの影響を受け、農業を取り巻く環境は今、大きな転換期を迎えています。こうした中で、農政の第一線でご活躍されている参議院議員 進藤 金日子氏、J A 秋田中央会長 小松 忠彦氏をお迎えし、県内の農業情勢、これからの農業並びに土地改良への期待等について対談していただきました。

## ●本県の農業・農村の現状について

**松田** 進藤議員は参議院議員になられて約10年間で、全国各地を訪れている中で、秋田県の農業農村の状況はどのように見えていますか。



松田会長

**進藤** 秋田県の耕地面積は全国6位ですから、非常に広大な平場があるということと、併せて中山間地域もありますから、全国の農業の縮図とも言えます。ただ、やはり水田農業が主体で、畑作が少なく、特に畜産が圧倒的に少ないのが秋田の特徴であると思います。米主体であるため農業産出額がなかなか伸びないことに加え、農業算出額に

占める生産農業所得の割合は、20%台で、多分、東北で最下位、一番高いのは佐賀県で40%を超えています。これからは、農家の所得をどう上げて行くかを、6次産業化等も含めて、もう少し分析しながら考えていかなければならないと思います。

**松田** 農業者の所得について話が出ましたが、農協組織において小松会長から見た秋田県の農業農村の状況はどのようにご覧になっていますか。

**小松** 現在、秋田県では米主体、そして兼業農家が過半数を占めるという経営形態となっており、私自信も複合型農業を目指して、農業の産出額を東北最下位からの脱却を目指すことを、会長になり言っております。そういった中で私が1番懸念しているのは、5年前に比べて基幹的農業従事者が3割減少していることです。一方で、小規模農家は減り、法人といった集団的な生産をしている方が3割を占めていて、このように現場は少しずつ変化を起こしている中、その変化をどう捉えて、どう伸ばしていくのかが大事だと思います。

**松田** 土地改良においても、あきた型ほ場整備ということで複合型農業が展開できるような基盤作りが展開されてきましたが、全体的に見るとまだ

まだ確立しているとは言い難い、一方で、確実に農業者が減っており、結果的に秋田県の農業形態はどのような方向に向くべきか、我々はどのように基盤整備するのが望ましいのかなど、進藤議員の考えをお聞かせください。

**進藤** 全国的にもあきた型ほ場整備は注目されており、県庁内の組織の壁が他に比べて低いように思います。それはJAを含め連携しているからではないでしょうか。一方、将来を見据えた時に、畑作や高収益作物は労力や適地適作といった制約が大きく、条件不利地では耕作放棄化に繋がりがかねません。労働力も含め、条件的に畑作が厳しい地域では、土地利用型作物や飼料用作物へ誘導し、生産性を向上させる必要があります。また、ほ場整備のみではなく、総務省家計調査を踏まえた需要側の視点も重要です。例えば、葉茎菜の消費量は秋田市が全国トップクラスであり、県内に大きな市場が存在することから、需要に応じた生産体制を整える必要があると思います。



進藤議員

**松田** 実際に基盤整備を進め、利用集積が図られ、法人を設立する中で法人の構成員の中には、一部の農作業しか携わらない方や農業から離れてしまう方が現実的にいます。農村の人口減少を踏まえると、進藤議員からお話しがあつたように近場で農業が成り立つ畑作形態もありだと思えます。小さい面積を一部残し、高収益作物については本人に委ねるような農業方針、方向性もあると思いますが、このような大規模な農地集積とは異なる農業への携わり方について小松会長はどのようにお考えでしょうか。

**小松** 豪雪地帯では高収益作物の導入が難しいという課題がある一方、集落内でアスパラなど複数の高収益作物に取り組むところは、地域の女性が作業に参加することで新たな所得を得て、基盤整

備の成果が出ている地域もあります。基盤整備を含め、多様な取り組みができるスタイルやその地域に似合った体制が取れるよう国に進めてもらうのが1番いいのではないかと思います。

## ●地域計画と水土里ビジョン

**松田** 多様性、あるいは選択できる余地を残しつつ各市町村においては地域計画を策定して、将来の担い手、農地の有効活用といった方向に進んでいます。本県では10年後の受け手不在農地が全体の32%になると言われています。担い手確保や地域計画に対する思い、見直しについて小松会長からご意見をお聞かせください。

**小松** 組合長の頃から、地域計画については協議会を立ち上げ、行政、農業会議の皆さんと話し合いの場を作って来ました。その際、今だけの話しではなく、先を見て話しをし、農協が地域の農地を有効利用できるようにこれからも時間をかけ、回を重ねる事が大切だと思っています。

**松田** 地域計画の策定について私も自治体の立場で関わっていますが、農業者の方が計画に対する重み、あるいは将来に向けた位置付けを十分に理解している方と、されていない方がいるのではないかと思います。自治体としても地域計画を作った後、絵に描いた餅にならないよう管理する必要がありますが、進藤議員の地域計画に対するお考えをお聞かせください。

**進藤** 地域計画は、以前の「人・農地プラン」を発展させ、農地を地図で「見える化」する仕組みとして導入されました。令和6年度末までに計画作成が求められ、市町村や農業委員会は大変だったと思いますが、これからのスタートラインであって、今後もブラッシュアップしていかなければいけません。農業政策の対象は、専業農家や大規模農家を中心となっていましたが、農地利用の集積や集約の遅れ、人口減少で集落そのものの維持ができないといった問題もあり、経営規模や兼業農家も含めた経営形態に関係なく支援を行う政策に変わりました。従って、地域計画の作成が極めて重要ですが、コーディネーターが決定的に足りず農業委員会だけでは対応できません。そのため今後は、県が主体となり、JA、農業委員会、土地改良区、農水省が連携できる体制を作ることが大切だと思っています。

**松田** 進藤議員のお話からは、専業、兼業別にしてやる気がある方に対し支援を行うという観点から今般の基本法改正で「多様な担い手」という言葉が入ったことは非常にインパクトがあると思います。一方で現場では、担い手や法人の中で後継者の育成が課題であり、将来の農地の受け皿をどう確保するかが重要となります。地域計画で課題をブラッシュアップしつつ、農業水利施設の維持管理をしていくという将来のビジョンも必要となる中、水土里ビジョンと地域計画の整合性や連携について進藤議員はどのように期待されていますか。

**進藤** 地域計画は農地利用、水土里ビジョンは水利施設の管理という異なる視点ではありますが、農地と施設は一体ですから連携が不可欠です。例えば、ある県では、土地連が市町村から地域計画の目標地図の作成を委託されています。土地連は、農地の情報に加えて水利施設の情報が入った水土里情報システムを持っていますから、このシステムで地域計画の作成を行うと農地利用だけでなく将来の水利施設の管理の姿が見えてきて、水土里ビジョンとの連結が可能となります。将来誰が管理するのか、担い手がどういう形で管理するのか、水土里ビジョンでしっかりと詰めて、図で分かるような形にして土地改良区、農業委員会と連携することが必要です。そのためには、土地改良区が双方を管理する必要があることから、土地改良区の運営基盤強化の支援を国が責任をもってやるべきだと私は思います。

**松田** 水の管理は何を生産するにしても不可欠であり、水は上流から下流へ流れるのは確かで、その水系を含めどう管理するかが必要です。きちんと将来を見据えた水路の管理が重要になりますが、このような観点から水土里ビジョンについて小松会長からお話しをお願いします。

**小松** 今までは土地改良区は土地改良区、JAはJAといったようにバラバラな感覚がありましたが、お互い連携して農地、土地改良施設をどのように守っていくのかを協議する場を設けるのが重要だと感じます。地域農業の未来像を描くことができ、今後も一緒になって作り上げていくことが今、我々へ課せられた課題ではないでしょうか。

## ●JAや土地改良区における男女共同参画について

**6** **松田** 地域計画、水土里ビジョン共に土地改良区

や農協組織がしっかりと中に入り、将来のビジョンを作ることが非常に重要になります。こうした中、現在、JA、土地改良では男女共同参画が言われています。JAでは早くから女性部会の立ち上げ、直売所や6次産業において女性の活躍というのが目覚ましいものがありますが、小松会長は、農業やJA関連組織において女性の活躍をどのように受け止めていらっしゃるのでしょうか。

**小松** 農協においても女性役員の割合を15%、そしてその先には、18%という目標数値が掲げられていますが、達成状況は組織によって異なります。JAは農業だけではなく、信用・共済・福祉など様々な事業があるので女性役員がいなければ成り立ちません。だからこそこの目標値の達成は非常に大事なことだと思っています。



小松会長

**松田** JA組織が女性活躍に対して先鞭をつけたという観点で、やはり土地改良区においても女性が意見を言える場を作ること、また、これは男女の性別関係なく、多くの気付きを組織に与えることは非常に重要だと思います。進藤議員は、女性活躍についてどのようなご認識でしょうか。

**進藤** 土地改良の分野では、令和7年度末までに理事に占める女性の割合を10%とする国の成果目標が掲げられたものの、土地改良区では、組合員資格の問題から女性が総代・理事になりやすく、当時は現場から強い反発がありました。しかし、女性の視点は施設管理や賦課金徴収等でも重要だという全土連 二階会長の助言もあり、今年3月に改正した土地改良法では「年齢及び性別に著しい偏りがないよう配慮しなければならない」と盛り込まれました。このような背景から、当初0.6%だった女性理事の割合が令和6年度末には2.6%まで増えました。また、初めて開催された「男女共同参画推進大会」は鹿角市で行われ、第2回目が今年熊本県で行われました。大会をきつ

かけに女性同士のネットワークの構築が図られただけでなく、向上心の啓発にも繋がっていると思います。これらを含め土地改良区の合併と併せて進めていき、様々な女性の視点を取り入れていくのが次のステップに繋がるのではないかと思います。

## ●土地改良への期待等

**松田** 土地改良において女性の会が立ち上がり活動を重ねることは非常に良い影響を与えていると思います。これからもどんどん活動を活発化させ求心力、即求力を持つような組織に成長すると更に早く目標にたどり着くような気がします。小松会長は以前、土地改良区の理事長を務められておりましたが、秋田県の農業農村の未来に向け、土地改良区に対する期待、あるいは、JAと土地改良区の連携について考えをお聞かせください。

**小松** 土地改良区という土台があって作物を作ることができるため、今以上に連携をして農業の現場が活性化できる取り組みができればと思っています。

**松田** 農協組織と土地改良区が様々な機会を作り意見交換を行うことで新たなアイデアが生まれるのではないかと思います。こうした中、今年度から始まる農業構造転換集中対策や、令和9年度から水田政策の見直しに向け、農政は重要な転換期を迎えております。土地改良区が果たす役割、あるいは土地改良とJAの連携等について進藤議員の考えをお聞かせください。

**進藤** 農業構造転換集中対策として、5年間で2.5兆円、国費として1.3兆円を別枠で確保することが決まっています。UR対策時に整備された共同利用施設のほとんどが老朽化し、そこを何とかしてほしいとの要望が多いため、約9,000億円が共同利用施設、中山間地域を含む土地改良事業に8,000億円を充てています。事業実施にあたっては、JAや土地改良区の状況、将来のほ場整備の見通しを踏まえ、施設の再編や効率的利用を進める必要があると思います。共同利用施設の整備には、国・県で最大3分の2まで負担する支援策を講じ、地方財政措置の充実も図りました。関係者が連携し進行管理を徹底することが不可欠であり、土地改良の実施も含め今が農業基盤強化の正念場であると考えます。

**松田** 共同利用施設の改修の話が出ましたが、その分野を所管している小松会長のお話もお聞かせ

ください。

**小松** 30年、40年経つと施設が老朽化し、最悪の場合、死亡事故も起こりかねないため、総力を挙げて更新なり改修なり取り組まなければいけないと思っています。

**松田** 共同利用施設の在り方を考えた時、土地改良の現状や将来を見定めたくて今の農業者の減少や将来の農地をどのように使うかに直結する非常に重要な観点だと思います。現在、耐暑性の品種改良というのは必須であり、サキホコレは比較的高温に強いわけですが、今後の展開など小松会長はどのようにお考えですか。

**小松** 今まで特別栽培米は県産米の軸としてきましたが、近年米の価格が上がり、そういったこだわりを見直す必要が出てきました。直播栽培では、特別栽培米が作れず、省力化を進めなければ人手不足となり今までと同じような米作りができなくなります。高温耐性のある品種を作付けできるよう、そういったことにもこれから取り組みが必要だと思います。

**松田** 直播栽培においても土地改良事業の支援や適切な水管理が不可欠であり、このような課題を踏まえると、今後、農協組織と土地改良区が様々な面で一緒に活動していく共通認識を持つことが重要となります。そのうえで、地域計画や水土里ビジョンをより充実させ、地域の将来を視覚的にすることが大切だと感じました。

本日は大変お忙しい中お時間を頂戴しありがとうございました。



対談の席には、水土里ネット秋田遠藤由美理事と本会女性職員が作成した「農の生け花」が飾られました。  
※農の生け花：農作物や身近な植物を使い、農や自然を表現した作品

# 令和8年度農業農村整備事業関係予算

## 令和8年度農業農村整備事業関係予算 概算決定の概要

令和8年度農林水産予算について、12月26日に下記の内容が閣議決定された。

(単位：億円)

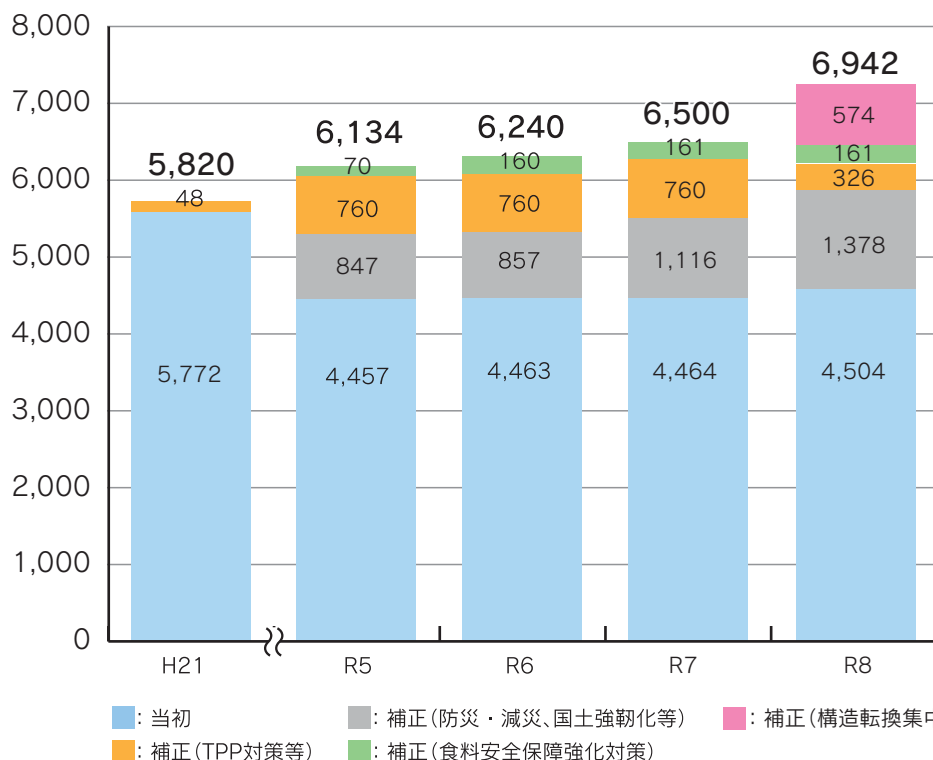
区 分	8年度 概算決定額 A	7年度 補正額 B	合 計 A+B	参 考		
				7年度 予算額 A'	6年度 補正額 B'	合 計 A'+B'
農業農村整備事業(公共)	3,365 (101.0%)	2,165	5,530	3,331	2,037	5,368
農業農村整備関連事業(非公共) 農地耕作条件改善事業、畑作等促進整備事業 農業水路等長寿命化・防災減災事業、 農山漁村振興交付金	554 (101.2%)	274	828	548	—	548
農山漁村地域整備交付金(公共) (農業農村整備分)	584 (100.0%)	—	584	584	—	584
計	4,504 (100.9%)	2,439	6,942	4,464	2,037	6,500

注1) 下段( )書きは、令和7年度予算額との比率である。

注2) 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。

## 農業農村整備事業関係予算(当初及び補正)の推移

単位：億円



### <注目事項>

農業農村整備事業関係予算の令和8年度当初予算は4,504億円。  
(対前年比100.9%)

また、防災・減災、国土強靱化対策、TPP対策、食料安全保障対策及び構造転換集中対策として、令和7年度補正予算において2,439億円を計上し、これらの総額は6,942億円。

※ 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。

## 令和8年度農林水産関係予算の重点事項（農業農村整備関係抜粋）

### （農業生産基盤の整備・保全）

	【8年度当初】	【7年度補正】
①農業農村整備事業＜公共＞	3,365億円 (3,331億円)	2,165億円
・農地の大区画化、水田の汎用化・畑地化、農業水利施設の計画的な更新・長寿命化、省エネ化・再エネ利用、省力化等による適切な保全管理、ため池の防災・減災対策、田んぼダムの取組拡大等流域治水対策、農道、集落排水施設の整備等を推進		
②農地耕作条件改善事業	203億円 (198億円)	100億円
・農地中間管理機構による農地の集約化、麦・大豆や高収益作物への転換を推進するため、機構による担い手への農地の集約化が行われる地域等において、農地の区画拡大や排水改良等を支援		
③大区画化等加速化支援事業	5億円 (一)	25億円
・法人等の農業者が自ら施工することによる農地の大区画化等を支援		
④農業水路等長寿命化・防災減災事業	272億円 (282億円)	147億円
・農業生産活動の基盤となる農業水利施設の機能の安定的な発揮や、生産性の向上を図るなど、機動的・効率的な長寿命化・防災減災対策を支援		
⑤畑作等促進整備事業	29億円 (22億円)	
・麦・大豆等の生産拡大を推進するため、畑作物・園芸作物が生産される地域を対象に、暗渠排水等の基盤整備をきめ細かく機動的に支援		
⑥農業生産基盤情報通信環境整備事業	7億円 (一)	2億円
・スマート農業の実装等に必要な光ファイバ、無線基地局等の情報通信環境の整備を支援		
⑦農山漁村振興交付金	38億円 (46億円)	
・地域における最適な土地利用構想の策定と実現に向けた取組、中山間地域等における農用地保全、農村型地域運営組織（農村RMO）の形成等総合的に推進		
⑧農山漁村地域整備交付金＜公共＞	農業農村整備分 584億円 (584億円)	
・地方が地域の自主性と創意工夫を活かしつつ実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策を支援		

注) 各事項の下端( )内は、令和7年度当初予算額である。

# 農業農村整備の集い

～農を守り、地方を創る予算の確保に向けて～

11月26日(水)、砂防会館別館「シェーンバッハ・サボー」で、令和7年度補正予算及び令和8年度当初予算の確保に向けた「農業農村整備の集い」が開催され、全国から土地改良関係者など約1,200名(本人出席国会議員約150名含む)が参加した。



鈴木農林水産大臣

始めに、二階俊博全土連会長が「食料安全保障を確保するためには、農業の構造転換を集中的に進めていくことが重要だ。既存の土地改良予算に加え、農地の大区画化や水利施設の整備、中山間地域対策を進めるための別枠予算を確実に確保するため、我々土地改良団体もしっかりと取り組んでいかななくてはならない。私どものスローガンである『闘う土地改良』のもと、一丸となって予算を勝ち取っていく戦いを続けていかななくてはならない」と挨拶を述べた。



二階全土連会長

また、ご臨席の鈴木憲和農林水産大臣、城内実日本成長戦略担当大臣、森山裕自民党幹事長、宮下一郎総合農林政策調査会長、進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問などからの力強いご祝辞をいただくとともに、多くの国会議員の皆様にも駆け付けていただいた。



進藤全国水土里ネット  
会長会議顧問

来賓祝辞に続いて、要請文提案・採択を全国土地改良大会の次回開催県である水土里ネット奈良の菅谷義寛常務理事が朗読し、満場の拍手をもって採択された。

最後に、なら水土里ネット女性の会長らによる力強い「ガンバロウ三唱」の発声と盛大な拍手をもって盛会裡に閉会した。



会場の様子

## ◆ 水土里ネット秋田の要請活動 (関係省庁など) ◆

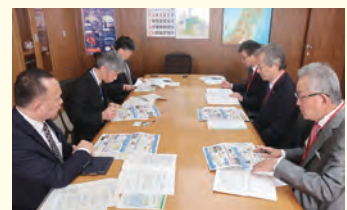
### ■ 農業農村整備事業関係予算の確保に向けて

#### ○ 水土里ネット秋田 (秋田県土地連)

11月12日(水)、松田会長はじめ本会役職員4名が東北農政局を訪れ、(1)令和8年度農業農村整備事業関係予算及び令和7年度補正予算の安定的な確保、農業構造転換集中対策及び第1次国土強靱化実施中期計画に係わる予算確保、(2)スマート農業の導入に向けた水田の区画拡大や情報通信環境の整備等の計画的な実施、大規模自然災害からの復旧・復興、防災・減災力の強化のための予算確保、(3)多面的機能支払交付金等による地域共同活動の実施に必要な予算の確保を要請した。

要請先は以下の通り

・東北農政局 永井農政局長、荻野局次長、鷲野農村振興部長、濱井地方参事官、平山地方参事官、三阪設計課長



### ■ 東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会

11月26日(水)、東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会(会長：高橋水土里ネットいわて会長)は、鈴木憲和農林水産大臣、高橋はるみ財務大臣政務官、山野謙復興事務次官、鈴木俊一自民党幹事長に対し、①新たな食料・農業・農村基本計画の実現に向けた農業農村整備関連予算の確保、②農業・農村地域の国土強靱化に向けた支援、③近年の大規模災害からの復旧・復興に係る支援、④土地改良区の運営体制等の強化に向けた支援、⑤東日本大震災で被災した地域の農業・農村再生に必要な予算の確保などについて要請・要望を行った。なお、本会からは松田会長が参加した。



## 小水力発電所が完成！（上市小水力発電所）

11月25日（火）、農業用水を利用した上市小水力発電所が由利本荘市西目町西目に完成し、発電所での安全祈願のあと、にしめ湯っ娘ランドで竣工式が行われた。

三浦理事長より「発電所を適切に運営し、売電による農家の負担軽減と土地改良区の運営強化、また由利本荘市との協定による災害時の電源供給が円滑に図られるように管理していきたい」とあいさつがあった。

本施設は、県営農業水利施設活用小水力発電施設整備事業にて整備され、由利本荘市土地改良区が管理する施設となっており、発電出力は48.5kWで、年間発電量は28.2万kWh（一般家庭約70軒分に相当）を見込んでいる。

平成27年度に事業化調査が行われ、平成30年に事業着手、令和7年6月に工事が完了し、同年9月から発電を開始している。

小水力発電所は、二酸化炭素排出量の削減に加え、売電収入を農業用水利施設等の維持管理費などに充てることで、組合員の負担金の軽減を図ることを目的としている。由利本荘市土地改良区管内ではこれまで2ヶ所整備されており、このほか県内では、にかほ市、大仙市、美郷町の計5ヶ所で整備されている。



## 北秋田市土地改良区 合併10周年記念式典・祝賀会を開催

12月4日（木）、北秋田市民ふれあいプラザコムコム「多目的ホール」において、北秋田市土地改良区合併10周年記念式典および祝賀会が開催された。

記念式典では、北秋田市土地改良区理事長の山内幸雄氏が式辞を述べ、合併以降10年間の歩みを振り返るとともに、組合員や関係機関の支援と協力に対する感謝の意を表した。

来賓として、秋田県土地改良事業団体連合会会長の松田知己氏、秋田県議会議員の佐藤光子氏が出席し、祝辞が述べられたほか、参議院議員の進藤金日子氏からビデオメッセージによる祝辞が寄せられた。

式典終了後に行われた祝賀会では、北秋田市土地改良区副理事長の土濃塚謙一郎氏が主催者あいさつを行い、続いて来賓の秋田県議会議員 北林丈正氏、秋田県北秋田地域振興局長の大山泰氏から祝辞が述べられた。乾杯は、秋田たかのす農業協同組合代表理事組合長 小笠原隆志氏の発声により行われ、和やかな雰囲気の中で出席者同士の交流を深める場となった。

北秋田市土地改良区では、今回の合併10周年を新たな節目として、今後も地域に寄り添った土地改良区運営を進め、地域農業と農業基盤のさらなる発展に取り組んでいくこととしている。



▲会場の様子▲



▲山内理事長による式辞



▲進藤金日子参議院議員による祝辞



▲松田会長による祝辞



▲土濃塚副理事長による主催者あいさつ



▲大山局長による祝辞

# 令和7年度 土地改良関係団体役職員講習会を開催

今年度は、11月11日（火）の平鹿支部役職員講習会を皮切りに12月5日（金）まで県内9会場において、延べ612名の関係者が参加し、盛会のうちに終了することが出来た。

## ■ 県からの情報提供

### 【共通テーマ】

- 1 「水土里ビジョンの策定について」
- 2 「土地改良区における男女共同参画の推進」
- 3 「土地改良区における不祥事の未然防止」
- 4 「その他」

## ■ 水土里ネット秋田からの情報提供

### 【共通テーマ】

「農業水利施設の団体営事業選択について」、他3テーマ

## ■ 各支部の日程及び主な個別テーマ

・ 土地改良関係団体役職員講習会（開催状況）

支部	年月日	場所	主な講習内容	参加者
平鹿 (役職員)	11.11	横手市	「霞ヶ関とドイツから見てきた秋田 ～強みを強みとして認識する」	84名
雄勝 (役職員)	11.13	湯沢市	「伝統を守り新しさを作る」 ～いぶりがっこと共に～	52名
山本 (役職員)	11.17	大潟村	「霞ヶ関とドイツから見てきた秋田 ～強みを強みとして認識する」	122名
仙北 (役員)	11.17～18	仙北市	「新たな土地改良長期計画について」	55名
由利 (役職員)	11.18	由利本荘市	「集落型農業法人アンケート調査結果を踏 まえた今後目指すべき方向」	77名
鹿角、大館・北秋田 (役職員)	11.20～21	鹿角市	「日常的な防災活動」	56名
仙北 (職員)	11.27	大仙市	「気候変動による災害リスクの増大と防災 気象情報の利活用」について	66名
秋田 (役員)	11.28	秋田市	「地域の防災について」	50名
秋田 (職員)	12.5	秋田市	「野生動物の生態と人身被害の防止対策に ついて」	50名
計				612名



▲松田会長挨拶（鹿角、大館・北秋田支部役職員講習会）



▲講習会様子（仙北支部職員講習会）

未来へつなごう! ふるさとの水土里 審査結果について

# 子ども絵画展2025

今年で26回目となるふるさとの水土里子ども絵画展(全国水土里ネット主催)は、子どもたちに田んぼや畑、農作物など、農業・農村に関心を持っていただき、全国各地域の農の風景や農業に携わる人たちの姿を通して、広く国民の皆様に農業への理解を深めていただくことを目的として、毎年開催されている。今年度の入賞作品は、12月4日(木)～12月11日(木)の間、「東京都美術館」で展示された。

全国から、2,625点の応募があり、秋田県からは、31点の作品が寄せられた。今年度はその中から1作品が受賞した。



## 水土里ネット秋田会長賞 「じじのスイカ がぶり」

男鹿市立船川第一小学校 今津谷 遥叶さん



## 祝 永年勤続30年表彰

12月26日(金)、永年勤続表彰式が行われ、当会南事務所の武藤 進所長が勤続30年で表彰を受けられました。おめでとうございます。今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます。

## 連 合 会 日 誌

1月22日	第31回秋田県「新技術・新工法」説明会	県庁第二庁舎
1月23日	第6回秋田県土地改良区運営基盤強化協議会	秋田県庁7階
1月23日	第26回秋田県土地改良区統合整備検討委員会	秋田県庁7階
1月27日	令和7年度あきた水土里フォーラム(男女共同参画推進事業)	秋田市「イヤタカ」
2月5日	第4回正副会長会議	本会「役員室」
2月13日	第6回監事会	本会「第2会議室」
2月13日	第4回理事会・役員会	本会「第1会議室」

本年もよろしくお願いたします。

令和8年



※秋田市総神社の特大絵馬

会 長	松田 知己	美郷町長	理 事	田川 政幸	三種町長
副 会 長	中田 謙三	男鹿市土地改良区理事長	〃	三浦 昭夫	由利本荘市土地改良区理事長
副 会 長	田口 裕	かづの土地改良区理事長	〃	市川 雄次	にかほ市長
専務理事	舛谷 雅広	員外(学識経験者)	〃	高貝 久遠	秋田県田沢疏水土地改良区理事長
常務理事	水戸 憲光	員外(学識経験者)	〃	柿崎 幹夫	秋田県雄物川筋土地改良区理事長
理 事	瀬川 等	湯沢雄勝土地改良区理事長	総括監事	伊藤 盛雄	にかほ市土地改良区理事長
〃	大塚 和浩	能代南土地改良区理事長	監 事	山内 幸雄	北秋田市土地改良区理事長
〃	遠藤 由美	学識経験者	〃	高村 正友	山城水系土地改良区理事長
〃	畠山 清俊	大館市土地改良区理事長		外職員一同	

開催予定

# 本会第68回通常総会

日時 令和8年3月16日(月) 午後1時

会場 秋田県社会福祉会館 10階大会議室

編集 新年明けましておめでとうございます。

後記 今年は【午年】、いわゆる「年男」になる福岡です。年男として迎えるこの一年、特別な思いを込めて皆さまにご挨拶申し上げます。

馬は、日本では「うまよくいく」の語呂合わせで「勝負運」「金運」などの縁起物とされているようです。また、「成長」「飛躍」の象徴となっているので、私自身も成長・飛躍できるよう、「年男パワー」で邁進したいと思います！

寒さが厳しい折、皆さまにおかれましても、どうかご愛ください。

本年が皆様にとって幸多き年となりますようお祈り申し上げます。(政策・広報班 福岡)